

授業科目 救急法実習 II

【担当教員名】 大滝 弘		対象学年	2	対象学科	スポ
		開講時期	後期	必修選択	選択
		単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】 スポーツ指導者として現場で必要な救急法の実践能力を習得することはもとより、救急法を学ぶことにより指導者として高い安全知識と事故防止に対する能力を身につける。					
【学習目標・行動目標：SBO】 救急法の理論を正しく理解し、より合理的な実践能力と判断力を養う。 1. 傷病者に対する適切な観察力と判断力を身につける。 2. 傷病者（意識障害、呼吸停止、心停止、大出血、服毒、熱傷）に対しての正しい応急手当ができる。 3. 救急処置（一次救命処置、AED、RICE、緊急時の対応）を理解し実践できる。 4. 事故、災害に対する安全知識を身につける。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	救急処置（緊急時の対応について溺水、雪崩、交通事故、酸素欠乏による事故）				期末テスト（レポート）
2	救急処置（緊急時の対応について心臓発作、脳卒中、呼吸困難、腹痛、痙攣、熱中症、中毒）				
3	救急処置（傷の手当て、骨折、各部のけが、熱傷、感電、落雷、低温障害、咬創）				
4	救急処置（包帯法 実習 1）				
5	救急処置（包帯法 実習 2）				
6	救急処置（包帯法、実技テスト）				
7	救急処置（止血法、血液の生理と止血点について）				
8	救急処置（止血法、直接圧迫止血、間接圧迫止血による各部の止血、実習）				
9	救急処置（骨折の分類、観察、固定の効果について）				
10	救急処置（固定法、各部の骨折に対する固定法、実習）				
11	救急処置（RICE、脱臼、捻挫、打撲について）				
12	救急処置（RICE、肉離れ、アキレス腱断裂、突き指について）				
13	搬送法、（搬送の方法と応用担架について実習）				
14	救護、災害被害軽減のための対応について				
15	救急体制、スポーツ現場における対応について				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 （必ず購入する書籍）		救急法講習教本	日本赤十字社	日赤会館	2013・3,000円
		公認アスレティックトレーナー専門テキスト第8巻 救急処置	日本赤十字社	日本体育協会	2007・3,100円
参考書		スポーツ現場における 救急処置のポイント	浅井宏祐	文光堂	1998・7,350円
その他の資料			東京消防庁	東京法令	2004・3,990円
【評価方法】 出席 実技テスト 期末試験（レポート）			【履修上の留意点】		